

[**成果情報名**] 粒ブドウ販売を目指したブドウ「シャインマスカット」の省力果房管理法
[**要約**] 「シャインマスカット」の無核栽培で、花蕾除去器具を使用して開花前に花蕾数を制限すると、繁忙期の摘粒作業時間が大幅に省力化できる。この栽培法で生産した果房は、果粒単位の果実品質は慣行管理と同等である。
[**キーワード**] 粒ブドウ販売、省力果房管理、花蕾除去器具、シャインマスカット
[**担当**] 三重県農業研究所・伊賀農業研究室
[**分類**] 普及

[**背景・ねらい**]

ブドウ栽培では房売りを目指すと、房作りのために花穂整形、摘粒作業等の果房管理作業に多大な労力を必要とする。近年、県内で栽培面積が増えている無核栽培では、摘心を伴う新梢管理と果房管理の作業時期が重なり労働集中が課題となる。一方、果粒を切り離してパック等に入れる販売形態では、房型を整えるための緻密な摘粒作業が不要となるため、粒ブドウ販売の原料とする場合は果房管理の省力化が可能となる。

[**成果の内容・特徴**]

1. 省力果房管理法では花蕾除去器具（商品名：テキライグシ）を使用する（図1）。短梢剪定栽培の「シャインマスカット」では、花穂が着生している新梢の展葉枚数が7～8枚になった時期にテキライグシを用いて花穂先端部の花蕾が粗着になるよう数回搔き取る（図2）。
2. 省力果房管理では慣行管理と比較して、テキライグシの作業が追加されるが、摘粒作業時の1房あたり着粒数が減少しているため、摘粒作業の時間が大幅に短縮できる。果房管理に要する作業の合計時間は慣行管理が1房あたり70.3秒に対し、省力果房管理では37.4秒と約47%の省力化が可能となる（図3）。
3. 省力果房管理法で栽培した果実はやや粗着で房型が揃わず、また着粒数が少ないため果房重も小さい（図4）。しかし、正常果率、糖度、酸度から見た果粒の果実品質は慣行果房管理栽培との差はなく、同等である（表1）。

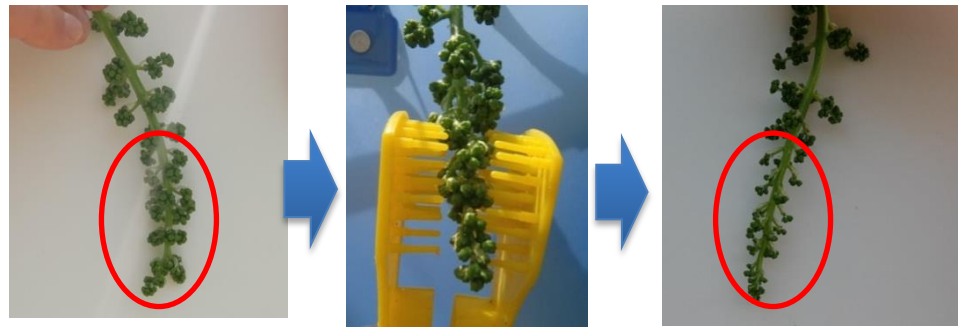
[**成果の活用面・留意点**]

1. テキライグシは長野県内のJAから約700円で購入可能である。
2. テキライグシを初めて使用する場合は、収穫対象としない第2花穂等を用いて練習し、花蕾の搔き取り時の力加減を把握する。
3. 本省力果房管理法は「シャインマスカット」以外の品種においても、果粒販売を目指した省力栽培として適用できる。
4. ブドウの無核栽培では果房管理時間が全作業時間の40%程度を占めるため、果房管理時間の省力化により農家は規模拡大が可能となる。

[具体的データ]



図 1. 花蕾除去器具
(商品名：テキライグシ)



処理前 花穂先端部の花蕾を掻き取る 処理後

図 2. テキライグシを利用した花蕾数制限処理

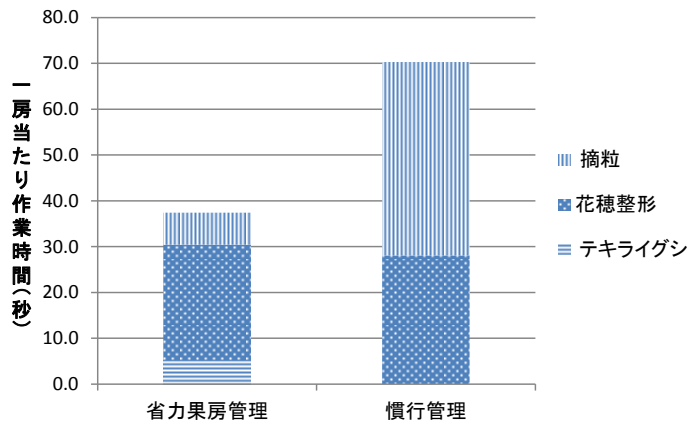


図 3. 省力果房管理と慣行管理の 1 房当たりの果房管理作業時間の比較

※各作業別時間の 3 年間 (H26~28 年) の平均値

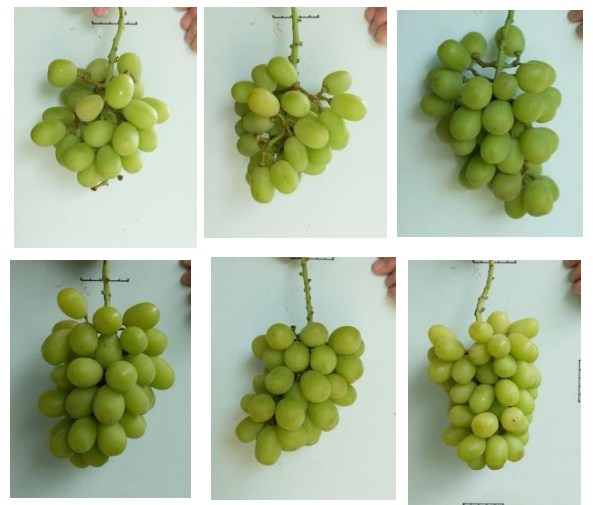


図 4. 収穫時における果房型の比較
上段：省力果房管理区 下段：慣行管理区

表 1. 省力果房管理と慣行管理の果実品質の比較 (H26~28 年の平均値)

処理区名	果房長 (cm)	果房重 (g)	着粒数 (粒)	正常果数 (粒)	正常果率 (%)	果粒重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)
省力果房管理	15.5	486.4	35.1	33.2	93.7	14.5	18.6	0.21
慣行管理	16.8	549.3	39.5	38.0	96.0	14.0	18.3	0.22

(近藤宏哉)

[その他]

研究課題名：新たな販売形態「粒ブドウ」出荷を実現する省力生産及び流通・貯蔵技術の確立

予算区分：競争的資金（農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業）

研究期間：2014~2016 年度

研究担当者：近藤宏哉、大野秀一、北上 達